

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・法学部

課題文はやや難しい。また、抜粋の仕方が恣意的なこともあって、主張が必ずしも明確とは言えない。だが、あえてまとめるなら、次のようになるだろう。

「日本は、国際的な人権問題への対応が消極的だと言われる。それは、『法的な枠組みで物事を考えない』『調和を重視する』などの文化的特性に加えて、『国際問題に無関心』『戦争責任問題があるために諸外国に強い態度に出にくい』といった戦後日本に特有の事情によるものだ。そのため、日本は他国に人権侵害があっても場当たりの対応しかできず、国際的な非難の対象にもなってきた。だが、多くの欧米諸国が途上国の人権侵害に対して、自分たちの人権観を押し付けるといった独善的な態度に陥りがちなものに対して、日本の態度はより抑制的で、途上国の立場に寄り添った柔軟な対応を可能にするものだ」

要するに、筆者は、国際人権への対応に消極的な日本の文化的・社会的要因を分析しつつ、むしろそうした要因によって、「人権の押し付け」になりがちな欧米の人権外交を抑制し、より調和的なものへと軌道修正できる可能性がある、と暗に主張しているわけだ。

もちろん、そうした筆者の考えが正しいかどうかを問題提起するのが正攻法だろう。「具体例に触れつつ」とあるので、中国やアフリカ諸国、最近のベネズエラなど、実際に起きている国際的な人権問題に触れながら論じるとよい。

イエスで書く場合は、「人権侵害は、社会に民主主義が定着していないために生じることが多い。一方的に人権の価値を押し付けるのではなく、まずはその国が民主主義を受け入れる土壌をつくれるように援助すべきだ。それには、日本のように経済援助を中心に漸進的な変革をめざす姿勢のほうがふさわしい」「他国の人権侵害を非難しても、内政干渉として反発されるだけだ。その国の事情に配慮しつつ、国際社会全体で人権の価値の定着をめざす必要がある。そのためには、日本のような融和的な姿勢が重要だ」などが考えられる。

ノーで書く場合は、「国によっては、人権侵害が少数民族の弾圧や民族浄化につながっている場合がある。そうした場合は、場当たりの対応では、抑圧されている人々を見殺しにすることにはかならない。そうならないように、日本も欧米諸国と歩調を合わせて毅然たる態度をとるべきだ」などと論じられるだろう。

テーマといい出題形式といい、しっかりと対策をしてきた受験生にとってはそこまで難しいとは感じられなかったはずだ。課題文の読みとりさえ間違えなければ、十分対応のできる問題だろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>